

**CASBEE-建築(新築)2016年版**  
 扶養化学工業 京都市二工 橋 FSUP-10 建設工事

欄に数値またはコメントを記入 ■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版 ■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v1.0)

スコアシート 実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
<b>Q 建築物の環境品質</b>								<b>2.3</b>
<b>Q1 室内環境</b>					<b>0.30</b>			<b>2.4</b>
1 音環境				2.6	0.15			2.6
1.1 室内騒音レベル				3.0	0.40			
1.2 遮音				3.0	0.40			
1 開口部遮音性能				-	-			
2 界壁遮音性能				3.0	1.00			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)								
4 界床遮音性能(重量衝撃源)								
1.3 吸音				1.0	0.20			
2 温熱環境				1.2	0.35			1.2
2.1 室温制御				1.5	0.50			
1 室温				1.0	0.38			
2 外皮性能				3.0	0.25			
3 ソーン別制御性				1.0	0.38			
2.2 湿度制御				1.0	0.20			
2.3 空調方式				1.0	0.30			
3 光・視環境				2.4	0.25			2.4
3.1 屋光利用				1.8	0.43			
1 屋光率				1.0	0.60			
2 方位別開口								
3 屋光利用設備				3.0	0.40			
3.2 グレア対策				-	-			
1 屋光制御				-	-			
3.3 照度				3.0	0.21			
3.4 照明制御				3.0	0.36			
4 空気質環境				3.9	0.25			3.9
4.1 発生源対策				4.0	0.50			
1 化学汚染物質		内装仕上げ材はF☆☆☆☆		4.0	1.00			
4.2 換気				3.0	0.30			
1 換気量		換気量: 83.3ml/h・人		5.0	0.33			
2 自然換気性能				1.0	0.33			
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.33			
4.3 運用管理				5.0	0.20			
1 CO <sub>2</sub> の監視				-	-			
2 喫煙の制御		建屋内禁煙		5.0	1.00			
<b>Q2 サービス性能</b>				-	<b>0.30</b>			<b>2.1</b>
1 機能性				1.8	0.40			1.8
1.1 機能性・使いやすさ				1.6	0.40			
1 広さ・収納性				1.0	0.33			
2 高度情報通信設備対応				1.0	0.33			
3 バリアフリー計画				3.0	0.33			
1.2 心理性・快適性				1.3	0.30			
1 広さ感・景観				1.0	0.33			
2 リフレッシュスペース				2.0	0.33			
3 内装計画				1.0	0.33			
1.3 維持管理				2.5	0.30			
1 維持管理に配慮した設計				3.0	0.50			
2 維持管理用機能の確保				2.0	0.50			
2 耐用性・信頼性				2.6	0.30			2.6
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50			
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80			
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20			
2.2 部品・部材の耐用年数				2.8	0.30			
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.20			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				2.0	0.20			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	0.10			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.10			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				3.0	0.20			
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20			
2.4 信頼性				1.4	0.20			
1 空調・換気設備				1.0	0.20			
2 給排水・衛生設備				1.0	0.20			
3 電気設備				1.0	0.20			
4 機械・配管支持方法				3.0	0.20			
5 通信・情報設備				1.0	0.20			

<b>3 対応性・更新性</b>			2.1	0.30		-	2.1
3.1 空間のゆとり			2.2	0.30		-	
1 階高のゆとり			1.0	0.60		-	
2 空間の形状・自由さ		壁長さ比率:0.14	4.0	0.40		-	
3.2 荷重のゆとり			2.0	0.30		-	
3.3 設備の更新性			2.2	0.40		-	
1 空調配管の更新性			3.0	0.20		-	
2 給排水管の更新性			1.0	0.20		-	
3 電気配線の更新性			1.0	0.10		-	
4 通信配線の更新性			1.0	0.10		-	
5 設備機器の更新性			3.0	0.20		-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	0.20		-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	0.40		-	2.5
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30		-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		周辺建物と高さを合わせ、調和を図っている。	4.0	0.40		-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.0	0.30		-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			2.0	0.50		-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			2.0	0.50		-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>							3.0
<b>LR1 エネルギー</b>			-	0.40		-	3.2
1 建物外皮の熱負荷抑制				-		-	-
2 自然エネルギー利用			3.0	0.13		-	3.0
3 設備システムの高効率化		BEI[BEIm] = 0.76	3.4	0.63		-	3.4
4 効率的運用			3.0	0.25		-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00		-	
4.1 モニタリング			3.0	0.50		-	
4.2 運用管理体制			3.0	0.50		-	
集合住宅の評価				-		-	
4.1 モニタリング				-		-	
4.2 運用管理体制				-		-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	0.30		-	2.6
1 水資源保護			2.2	0.20		-	2.2
1.1 節水			1.0	0.40		-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60		-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70		-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30		-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.6	0.60		-	2.6
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.10		-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20		-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20		-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		-	1.0	0.20		-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.10		-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		躯体+PB+EP-G塗・クロスのため躯体と仕上材の分離が容易	4.0	0.20		-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20		-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30		-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70		-	
1 消火剤			-	-		-	
2 発泡剤(断熱材等)			3.0	0.50		-	
3 冷媒			3.0	0.50		-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	0.30		-	3.1
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2排出率:92%	3.4	0.33		-	3.4
2 地域環境への配慮			2.9	0.33		-	2.9
2.1 大気汚染防止		燃焼機器の設置はない。	5.0	0.25		-	
2.2 温熱環境悪化の改善			2.0	0.50		-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.7	0.25		-	
1 雨水排水負荷低減			3.0	0.25		-	
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25		-	
3 交通負荷抑制		十分な駐車台数の確保	4.0	0.25		-	
4 廃棄物処理負荷抑制			1.0	0.25		-	
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33		-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40		-	
1 騒音			3.0	0.50		-	
2 振動			3.0	0.50		-	
3 悪臭			-	-		-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40		-	
1 風害の抑制			3.0	0.70		-	
2 砂塵の抑制				-		-	
3 日照阻害の抑制			3.0	0.30		-	
3.3 光害の抑制			3.0	0.20		-	
1 屋外照明及び屋内照明のうちがに漏れる光への対策			3.0	0.70		-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30		-	